

することを欲するのである。即ち人間生活上眞に缺くべからざる價值あるものでなければならぬ、現代は通觀して、ある今過渡期、此の期を逸せず從來の因襲的頑強なる形式に囚はれずに改善する必要があると思ふ。

吾祖は既に業に此の合理的宗教を題目の七字に結んだ、之れ永恒不易なる眞理であつて、人類普遍的に歸依すべき根本原理にして智情意三方面に何等の撞着を醸すことなき、一大宗教として世界的に紹介する價値を有して居りながら餘りに目醒めないことを慨嘆するのである。已上



文 化 說

靜 溟 生

夫文化者之生、俟於人、人也者文化之主體矣、今觀世間、崇其力用、尊其能率、將迎之者、是自然科學也、然而其業績也偉大、其應用也廣汎、眞足使人驚心愕目、世謂之文明、以爲黎民由是厚生、國家由是富裕、雖然、今人益苦其矛盾、欲解愈煩悶、是果何乎、曰據偏重科學、故宜使驅者、反及爲使驅、是其弊也、夫爲造由目的者、所壞由目的、但爲不然人生、技工之產物者、人之所有、而莫爲是所役、爲是所役、則失價值、失其價值、則不能爲文化之主體矣

